

主 題：ただ一つの真の福音

聖書箇所：ガラテヤ人への手紙 1章1-12節

私たちが受け入れた福音、私たちが信じた福音、それと同じ福音をパウロも信じています。そして、パウロは自分が信じた福音を宣べ伝えていたのです。しかし、それを否定する者たちが現れました。彼らはガラテヤのキリスト者たちを惑わしていたのです。そこでパウロはそのガラテヤのキリスト者たちに対してこの手紙を書き送ったのです。今日は、「ただ一つの真の福音」ということでガラテヤ書1：1-12をごいっしょに学んでいきたいと思えます。

1. あいさつ 1：1-5

「1 使徒となったパウロ——私が使徒となったのは、人間から出たことでなく、また人間の手を通したことでなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神によったのです——2 および私とともにいるすべての兄弟たちから、ガラテヤの諸教会へ。3 どうか、私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。4 キリストは、今の悪の世界から私たちを救い出そうとして、私たちの罪のためにご自身をお捨てになりました。私たちの神であり父である方のみこころによったのです。5 どうか、この神に栄光がとこしえにありますように。アーメン。」この「あいさつ」の部分にも神学的に非常に大切なことが記されています。また、パウロはこの手紙で一貫して「信仰義認」を説いています。2：16には「しかし、人は律法の行いによっては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる、ということを知ったからこそ、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。これは、律法の行いによってではなく、キリストを信じる信仰によって義と認められるためです。なぜなら、律法の行いによって義と認められる者は、ひとりもないからです。」と書かれている通りです。「信仰義認」はパウロ書簡に一貫して流れている教理です。

1) 1：1 パウロの使徒職について

パウロは自分はどうのように使徒として召されたのか、任じられたのか？そのことを記しています。「使徒」とはギリシャ語では「アポストロス」と言い、「使者、大使、特別な使命を帯びて派遣された者」という意味です。キリストが任命した12使徒、また、パウロたちは「キリストの全権大使」です。イエスはこのように言われています。ヨハネ20：21「…「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」と。

○使徒としての条件は、

a. 主を見た者、また、主の復活の目撃証人

b. 主ご自身、または、聖霊によって選び出された者（参照＝使徒1：23-26「23 そこで、彼らは、バルサバと呼ばれ別名をユストというヨセフと、マツテヤとのふたりを立てた。24 そして、こう祈った。「すべての人の心を知っておられる主よ。25 この務めと使徒職の地位を継がせるために、このふたりのうちのどちらをお選びになるか、お示してください。ユダは自分のところへ行くために脱落して行きましたから。」26 そしてふたりのためにくじを引くと、くじはマツテヤに当たったので、彼は十一人の使徒たちに加えられた。）」

使徒として任じられたパウロですが、彼の使徒職を攻撃する者たちがいました。彼らに対してパウロは、自分の使徒職がどこから来たのかをこの1節で主張しています。

○パウロの使徒職に反抗する者たちへの弁明

a. 使徒職は人間的な経緯に拠ったのではない：1節に「…人間から出たことでなく、また人間の手を通したことでなく、」と記されています。

b. イエス・キリストと父なる神の権威によって与えられた：続いて「イエス・キリストと、キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神によったのです——」とある通りです。

ガラテヤ2：8で「ペテロにみわざをなして、割礼を受けた者への使徒となさった方が、私にもみわざをなして、異邦人への使徒としてくださったのです。」とパウロは自分の使徒職を明らかにしています。また、使徒9：15には「しかし、主はこう言われた。「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。」と書かれています。また、パウロはローマ1：1で自分が使徒として召されたことをこのように記しています。「神の福音のために選び分けられ、使徒として召されたキリスト・イエスのしもべパウロ、」と。ですから、パウロは自分が使徒となったのは、人間から与えられたのではなく、神の権威によって、イエス・キリストの権威によって任じられたのだと、このように自分の使徒職の正当性を主張するのです。

2) 1：2 宛先

ガラテヤの諸教会へ宛てて書かれました。現在のトルコです。2節の初めに「および私とともにいる

すべての兄弟たちから、」と言っています。パウロはここにこのように記して何を言いたかったのか？それは、ガラテヤの諸教会に入り込んだユダヤ主義者や律法主義者が宣べ伝えている偽りの福音と戦っているのは、自分だけでなく他にも仲間がいるということを明らかにしているのです。

3) 1 : 3 パウロの祈り

「どうか、私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。」と。

「恵み」 : ギリシャ語で「カリス」ということばが使われていますが、「受けるにふさわしくない者に与えられる神の賜物」です。私たちも恵みによって救われました。

「平安」 : ギリシャ語では「エイレーネ」、ヘブル語では「シャローム」ということばです。「神との正しい関係において霊的に満たされている状態」と言うことができます。

どちらも、イエス・キリストと父なる神から来るということをパウロはこの3節で明らかにしています。「恵み」と「平安」、その源はイエス・キリスト、そして、父なる神であるとパウロは言います。

4) 1 : 4 イエス・キリストのみわざ(十字架の死)

ここにパウロは大切な教理を記しています。

a. 悪からの救い : 「キリストは、今の悪の世界から私たちを救い出そうとして、…」、「救い出す」は「解放する」とも訳せることばです。「今の悪の世界から」、それは罪と死の原理が支配している今のこの世ということです。パウロはこのように言っています。ローマ8 : 2「なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」。

b. 私たちの罪のために : パウロはローマ4 : 25で「主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。」と言っています。「罪のために」とは「身代わりとして」という意味で、後半の「義と認められるために、」は「このことを保証するために」よみがえられたということです。

c. 自分を犠牲にされた : 「ご自身をお捨てになりました。」、それは私たちの罪のためです。

d. 父なる神のみこころに従った : 「私たちの神であり父である方のみこころによったのです。」とあります。

5) 1 : 5 頌栄

「どうか、この神に栄光がとこしえにありますように。アーメン。」とパウロは神を誉め称えています。まさに、4節のイエス・キリストのみわざを受けて、それは父なる神の栄光を現しているとパウロは父なる神を誉め称えるのです。恵みによって救いに与ったガラテヤのキリスト者たち、彼らはまさに、パウロが宣べ伝えた福音に立っていたのですが、いつしか、正しい福音を捨てて偽りの福音を受け入れ、また、受け入れようとしていると、そのことに対してパウロはこの後、強い口調で彼らを問い正すのです。

2. ただ一つの真の福音を見捨てる者たち 1 : 6 - 10

6 - 10節「:6 私は、キリストの恵みをもってあなたがたを召してくださったその方を、あなたがたがそんなにも急に見捨てて、ほかの福音に移って行くのに驚いています。:7 ほかの福音といっても、もう一つ別に福音があるわけではありません。あなたがたをかき乱す者たちがいて、キリストの福音を変えてしまおうとしているだけです。:8 しかし、私たちであろうと、天の御使いであろうと、もし私たちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれるべきです。:9 私たちが前に言ったように、今もう一度私は言います。もしだれかが、あなたがたの受けた福音に反することを、あなたがたに宣べ伝えているなら、その者はのろわれるべきです。:10 いま私は人に取り入ろうとしているのでしょうか。いや、神に、でしょう。あるいはまた、人の歓心を買おうと努めているのでしょうか。もし私がいまなお人の歓心を買おうとするようなら、私はキリストのしもべとは言えません。」

1) 真の福音をかき乱す者たち 6 - 9節

a. ガラテヤのキリスト者たちの心変わり 1 : 6 : 6節にはガラテヤのキリスト者たちの心変わりが記されています。6節の文頭の原文は「私は～驚いています。」で始まっています。そのことが非常に強調されているのです。パウロは1節で自分は使徒として召された、任じられたと述べ、そして、使徒パウロが宣べ伝えた福音からガラテヤのキリスト者たちが離れて行こうとしている、その彼らに対して「なぜなのか？なぜ、私が伝えた福音から離れて行くのか？」と強い口調で非難をしているのです。

「キリストの恵み」 : 3節で語られた「恵み」と同じです。

「召して」 : 不定過去形で、過去のあるときにあった神の召し、それは決定的であり事実であったということを表すために使われている時制です。

「見捨てて」 : これは現在形です。ですから、見捨て続けているということです。「心変わりをして」とか「離れて行って」ということを表すことばです。ガラテヤ5 : 4には「律法によって義と認められようとしているあなたがたは、キリストから離れ、恵みから落ちてしまったのです。」と書かれています。

「移って行く」 : これも現在形です。このことばは「党派や宗旨を変える行為」で「変節する」と訳

すこともできることばです。また、「墮落する、背教する」という意味も持っていることばです。ガラテヤ5：7－8には「7 あなたがたはよく走っていたのに、だれがあなたがたを妨げて、真理に従わなくさせたのですか。8 そのような勧めは、あなたがたを召してくださった方から出たものではありません。」と書かれています。

「ほかの福音」：ガラテヤのキリスト者たちはパウロが宣べ伝えた福音ではなく「ほかの福音」に変節しようとしている、そのことにパウロは非常な驚きとともに、そのことについて彼らを責めているのです。「ほかの福音」、ほかに福音があるのか？と問う前に7節を見ると、そのようなものはないと記されています。「ほかの福音」とは、ガラテヤの諸教会に入って来たユダヤ主義者や律法学者たちが宣べ伝えていた偽りの福音のことです。彼らは律法を守ることが神の救いに与ることだと主張したのです。

パウロはガラテヤのキリスト者たちが心変わりして行くその様子を見て、彼らを責めています。

b. キリストの福音を変える者たち 1：7：7節では「キリストの福音を変える者たち」について言及されています。先ほども言いましたが、福音は一つしかありません。それは真の福音＝キリストの福音だけです。イエスはこう言われました。ヨハネ14：6「イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」と。キリストの福音こそただ一つの福音なのです。しかし、その福音をかき乱す者たちがいると書かれています。

「かき乱す」：これは「霊的分裂を生じさせて正しい信仰を見えなくする」という意味を持ったことばです。また、「心を動揺させる、混乱に投げ込む」とも訳すことも可能です。

「変えて」：「変質させる、くつがえす」という意味を持っています。

パウロはガラテヤ3：1－3でこう述べています。「1 ああ愚かなガラテヤ人。十字架につけられたイエス・キリストが、あなたがたの目の前に、あんなにはっきり示されたのに、だれがあなたがたを迷わせたのですか。2 ただこれだけをあなたがたから聞いておきたい。あなたがたが御霊を受けたのは、律法を行ったからですか。それとも信仰をもって聞いたからですか。3 あなたがたはどこまで道理がわからないのですか。御霊で始まったあなたがたが、いま肉によって完成されるというのですか。」と。パウロはここからもガラテヤのキリスト者たちに対して「なぜ、あなたがたは偽りの福音に入って行ったのか？そのようなものが正しい福音でないことを知っているでしょう！！」と言うのです。ガラテヤの諸教会で「キリストの福音、ただ一つの真の福音」がくつがえされるかもしれない重大な危機的事態が進行中だったのです。

c. 偽りの福音を宣べ伝える者たち：1：8－9

「のろわれるべき者たち」：これは「神の怒りに渡されるべき者たち」という意味です。ガラテヤ5：10、12にも同じことが記されています。「10 私は主にあって、あなたがたが少しも違った考えを持っていないと確信しています。しかし、あなたがたをかき乱す者は、だれであろうと、さばきを受けるのです。」「12 あなたがたをかき乱す者どもは、いっそのこと切り取ってしまうほうがよいのです。」そして、8、9節ではこのことばが2回繰り返して使われています。8節「その者はのろわれるべきです。」、9節でも「その者はのろわれるべきです。」と。このように訳されたこの箇所原文出处は「彼はアナセマであれ」です。

「アナセマ」の意味：良い意味＝神にささげられたもの

悪い意味＝神の怒りに渡されたもの

ローマ9：3でも使われていますが、そこでは「のろわれた者」となっています。「もしできることなら、私の同胞、肉による同国人のために、この私がキリストから引き離されて、のろわれた者となることさえ願いたいのです。」と。また、1コリント12：3では「ですから、私は、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも、「イエスはのろわれよ」と言わず、また、聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です」と言うことはできません。」と書かれています。

パウロは1：8で仮定のこととして「しかし、私たちであろうと、天の御使いであろうと、」キリストの福音をくつがえすことなど絶対に許されない！！と強い口調で言うのです。そのような者たちは「のろわれるべきです。」と言います。パウロの主張は「遣わされた者の身分や人格がその人のメッセージの正当性を実証するのではなく、そのメッセージの内容、性質が遣わされた者の正当性を実証するものだ。」ということです。「あの人はずばらしい人だ！あの人はこのような人格者だ。だから、あの人が宣べるメッセージはすべて正しい。」ではなく、メッセージの内容、それが遣わされた者としての正当性を証明すると、このようにパウロは言うのです。

そして、9節「もしだれかが、あなたがたの受けた福音に反することを、あなたがたに宣べ伝えているなら、その者はのろわれるべきです。」とあります。

「だれかが」：ガラテヤのキリスト者たちをかき乱している者たちのことです。

「あなたがたの受けた福音」：それは8節にあるように「私たち（パウロたち）が宣べ伝えた福音」であり、7節にある「キリストの福音」です。この「受けた」ということばの時制は不定過去ですから、あ

なたがたが過去のある時に確実に受けた福音であると、このようにパウロは言うのです。

2) パウロの弁明 1 : 10

ここでパウロは自分の弁明をしています。なぜ、この10節が必要なのか？私たちは考えてみる必要があります。ガラテヤのキリスト者たちを惑わそうとして入って来たユダヤ主義者たちや律法主義者たちは、パウロが宣べていた「信仰によって救われる、信仰のみによって救われる」という福音は「それは違う、律法を守らなければいけない、特に、割礼を受けなければ救われない。」と宣べていたのです。ですから、パウロはこの10節で自分の宣べ伝えている福音がいかに神からいただいた福音であるかを立証しようとしているのです。

「**歓心を買う**」：このことばは「喜ばせる」という意味があります。このことばはIコリント10 : 33やIテサロニケ2 : 4、15で使われています。「10:33 私も、人々が救われるために、自分の利益を求めず、多くの人の利益を求め、どんなことでも、みなの人を喜ばせているのですから。」「2:4 私たちは神に認められて福音をゆだねられた者ですから、それにふさわしく、人を喜ばせようとしてではなく、私たちの心をお調べになる神を喜ばせようとして語るのです。」「1:15 ユダヤ人は、主であられるイエスをも、預言者たちをも殺し、また私たちをも追い出し、神に喜ばれず、すべての人の敵となっています。」、

「**取り入る**」：国語辞典では「気に入られるようにへつらうこと」となっています。

パウロに反対する、パウロが宣べた福音を曲げて、偽りの福音を宣べているユダヤ主義者たちや律法主義者たちは「パウロは人の歓心を買おうとしている。パウロは人に取り入ろうとしている。」と言います。それはなぜか？パウロが福音を適当に和らげて受け入れ易くし、人を喜ばせようとしていると、彼らは言うのです。なぜなら、「信じるだけで救われる」というパウロの福音は「違う」、律法を守らなければ、割礼を受けなければ救われないとする彼らの偽りの福音を見ると、人は「信じる」という行為だけで救われるということがいかに簡単であるかと、偽りの福音を宣べる者たちにはそのように映ったのでしょう。だから、彼らはパウロの福音は本当の福音ではないと、このように攻撃するのです。

ですから、ここでパウロは自分が宣べ伝えている福音の正当性をしっかりと主張しているのです。ですから、10節の最後で「もし私がいまなお人の歓心を買おうとするようなら、私はキリストのしもべとは言えません。」と断言しています。パウロは自分は「キリストのしもべ」である、だから、神が喜ばれるキリストの福音を語っていると言うのです。もし、私がその福音を語らなければ私は「キリストのしもべ、キリストの奴隷」とは言えないと言うのです。

ほかの福音(人を喜ばせる) ⇔ キリストの福音、ただ一つの真の福音(神を喜ばせる)

先にも見ましたが、ガラテヤ2 : 16「しかし、人は律法の行いによっては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる、ということを知ったからこそ、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。これは、律法の行いによってではなく、キリストを信じる信仰によって義と認められるためです。なぜなら、律法の行いによって義と認められる者は、ひとりもないからです。」、ガラテヤ3 : 26「あなたがたはみな、キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子どもです。」

このようにパウロは記しています。パウロは自分がキリストのしもべとして、ただ一つの福音を宣べていると言った後で、11-12節でその福音がどのようなものであるかを私たちに教えています。

3. ただ一つの真の福音 1 : 11-12

「1:11 兄弟たちよ。私はあなたがたに知らせましょう。私が宣べ伝えた福音は、人間によるものではありません。:12 私はそれを人間からは受けなかったし、また教えられもしませんでした。ただイエス・キリストの啓示によって受けたのです。」、この11節の文頭は原文でも「私はあなたがたに知らせましょう」となっています。だから、パウロはこのことを強調したかったのです。これから非常に大切なことをあなたがたに明らかに示しますということです。「知らせる」ということばはギリシャ語では「グノーリゾー」で「明らかに示す、はっきり宣言する」ということばです。パウロは使徒として召されたことは人から与えられたものではなく、神から与えられたものだと言いました。

1) **パウロが宣べ伝えた福音**：そして、パウロが宣べ伝えたただ一つの真の福音、それも同じように神から与えられたもので、他の人から受けたものでも教えられたものでもないと言うのです。

パウロが宣べ伝えた福音 = 「キリストの福音」
= 「ただ一つの真の福音」

そのことが11、12節に記されています。

a. 人間から受けなかった、人間から教えられなかった

b. イエス・キリストの啓示によって受けた

ガラテヤ3 : 2、11、6 : 15を参照してください。「2 ただこれだけをあなたがたから聞いておきたい。あなたがたが御霊を受けたのは、律法を行ったからですか。それとも信仰をもって聞いたからですか。」「11 ところが、律法によって神の前に義と認められる者が、だれもないということは明らかです。「義人は信仰によっ

て生きる」のだからです。」「6:15 割礼を受けているか受けていないかは、大事なことはありません。大事なものは新しい創造です。」

「啓示」は非常に大切なことばです。ギリシャ語では「アポカリュプシス」で「今まで隠されていた神の真理を、覆いを取って人間に明らかに示す神の行為」と言えます。ですから、神がしてくださらないければ私たちは神の真理を知ることが出来ない、それが「啓示」です。この啓示の具体的な事柄が次の箇所に記されています。ヘブル 1 : 1 - 2 「:1 神は、むかし父祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られましたが、:2 この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。」、ローマ 1 : 19 - 20 「:19 それゆえ、神について知られることは、彼らに明らかです。それは神が明らかにされたのです。:20 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。」

2) その内容 : パウロがこの 11、12 節で言わんとしている「イエス・キリストの啓示によって受けた」ただ一つの真の福音とはどのような内容のものでしょうか？このことはパウロが I コリント 15 : 1 - 4 で私たちに教えてくれています。「:1 兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私あなたがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それによって立っている福音です。:2 また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら、私の宣べ伝えたこの福音のことばをしっかりと保ていれば、この福音によって救われるのです。:3 私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおり、私たちの罪のために死なれたこと、:4 また、葬られたこと、また、聖書の示すとおり、三日目によみがえられたこと、」

- ⇒ a. キリストは聖書の示すとおり、私たちの罪のために死なれたこと
b. 葬られたこと
c. 聖書に従って三日目によみがえられたこと

3) 私たちは罪を悔い改めて、私たちの罪のために十字架に架かり、三日目によみがえられたイエス・キリストを救い主、また、主として信じる（受け入れる）ことによって救われるのです

この福音こそパウロが宣べ伝えていた福音です。このことを他のみことばもはっきりと述べています。使徒の働き 4 : 12 「この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないからです。」

エペソ 2 : 8 「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」

ローマ 3 : 24 「ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。」

ヨハネ 3 : 16 「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

4. あなたは、真の福音に堅く立っていますか？

私たちは今日、このガラテヤ書 1 章から「ただ一つの真の福音」ということを学んで来ました。真の福音は一つしかないのです。先に救われた皆さん、皆さんはこの真の福音に堅く立っておられますか？パウロはこう言います。I コリント 15 : 58 「ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあつてむだでないことを知っているのですから。」、これは、私たちが偽りの福音ではなく真の福音にしっかりと立つ、それが絶対条件であることをパウロはここでも私たちに教えています。パウロはまたこのように言います。II コリント 13 : 5 「あなたがたは、信仰に立っているかどうか、自分自身をためし、また吟味しなさい。それとも、あなたがたのうちにはイエス・キリストがおられることを、自分で認めないのですか——あなたがたがそれに不適合であれば別です。——」と。

なぜ、パウロは私たちにここまでみことばをもって教えているのか？パウロは知っていたのです。この世は増々悪くなっていくことを…。だから、私たちはしっかりした土台に立っていなければ、その悪い世の流れに流されてしまうと、そのようにパウロは教えるのです。II テモテ 4 : 3 - 4 「:3 というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言ってもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、:4 真理から耳をそむけ、空想話にそれて行くような時代になるからです。」

この中にまだ救われていない方がおられるなら、ぜひ、このことを知っていただきたいと思います。私たちは時々このようなことを聞くことがあります。「登る道はいろいろあるけれど、登ったならその頂は一つだ。だから、何を信じてその行き着くところは同じだ。」と。実際の登山ならこのことは事実です。確かに、山登りには様々なルートがあります。そして、どのルートを通っても同じ頂上に行き着きます。地上最高峰のエベレストでも易しいルートから困難なルートまで様々なルートがあります。そし

て、確かにそのルートに登ると頂上に着きます。

しかし、私たちの人生の山登りはこれとは違います。それには正しい道は一つしかありません。もし、他の道に登るなら、その頂は偽りの頂です。そのようなルートに登らないように、私たちは先に救われた者として、このみことばから、また、私たちの信仰の経験を通して、はっきりとそのことを告げることが出来ます。私たちの人生において、登ることが出来る道はただ一つです。それは、一つの福音しかない、イエス・キリストの福音だけです。この道に登る以外、私たちが祝福を受ける道はありません。

救いをまだご自分のものとしておられない皆さん、ぜひ、このことを覚えてください。そして、あなたも私たちと同じように、すばらしい天の希望をもって、この地上での人生を歩んでいただきたいと思えます。